

SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	村上 美鈴	学校名	藤崎小学校
実施学年	小学校2学年	教科	算数
単元名	算数のじゆうけんきゆう 線路つなぎ		

《学びを深めたいポイント》

- ・本時の学習では、与えられた条件の中で、見通しをもって線路を構成していく力が求められている。
- ・導入の場面において、「ぐるっとまわる」がキーワードであることを押さえ、カードの枚数や、並べ方の注意点（重ねない、ななめに置かない、切らさない）をよく確認することで、よりねらいにせまる活動ができると考える。
- ・自力解決の場面では、目標とする線路をつくるために、どのカードをどのように配置していくかを考える必要がある。紙での切り貼りだと、一度間違っただま貼ってしまうとやり直しがきかないが、タブレット上だと何度もやり直しができるため、目標とする線路が一発で作れなくても、粘り強く、試行錯誤しながらゴールを目指すことができると考える。
- ・オリジナルの線路をつくる場面では、仕組みを複雑にしたり、全部のカードを使用した線路を考えたりする児童が出てくることが予想される。いずれの場合も、条件である「ぐるっとまわる」こと、重ねないこと、ななめに置かないこと、切らさないこと、各カードの枚数は決まっていることをよく確認することが大切である。また、つくった線路は、少人数グループで共有、交流することで、児童同士の評価にも繋がると考える。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・線路カードが枚数分おかれたシートを複数用意している「発表ノート」を配付する。これにより、教師が具体物を用意しなくても、全員がタブレット端末上で実際に半具体物の操作活動を行うことができるメリットが生じる。
- ・児童は線路カードを操作しながら、目標とする形をつくっていく。このとき、紙の切り貼りとは違い、何度もやり直しがきくこと、手の器用さに関わらず一人ひとりが作業できること、他の並べ方を思いついたときに、前につくったものを消さず残したまま新しくつくれるといったメリットがある。
- ・画面一覧から、児童の画面をすぐに映し出すことができ、完成した画面や作業中の画面も含め、全体への共有が簡単にできる。
- ・グループワーク機能では、少人数のグループで自分が考えた線路を共有することができ、スタンプを押すこともできるため、児童同士で評価ができる。また、友達のノートを持ち帰ることもできるため、自分の端末上でいつでも見返すことができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導	I 素材を知る T 今日は線路つなぎをやります。		

<p>入</p>	<p>T線路カードが、それぞれ4枚、3枚、12枚あります。これらを使って「ぐるっと回る」線路をつくります。</p> <p>Tルールは3つです。</p> <p>①重ねない ②ななめに置かない ③切らさない</p> <p>カードを動かすときは、カードの真ん中を持って動かしましょう。</p>	 <p>・画面ロックで先生の話聞く。</p> 	<p>・ここではあえて黒板に紙で作った線路カードを貼り、ルールを常時黒板に残し、確認できるようにしておく。</p> <p>・画面ロックにすることで、児童が手を止めて先生の話聞くことができる。</p>
<p>展 開</p>	<p>指定された線路をつくる</p> <p>○ミッション①とミッション②で示された形になるように線路カードを並べていく。</p>  <p>○ミッション③として、オリジナルの線路を考える。</p>  <p>○自分が考えた、とっておきの線路を生活班で共有する。</p>	<p>・児童は「発表ノート」の画面上で、指定された形になるように線路カードを並べていく。</p> <p>・教師は、画面一覧から指名された児童の画面をモニターに映し出す。</p>  <p>・児童は、「発表ノート」の画面上で線路カードを並べていく。</p> <p>・「グループワーク」機能で、生活班の友達の画面を一人ひとりが見える</p>	<p>・アナログで切ったり貼ったりするとやり直しがきかないが、何度でもやり直すことができ、作りたい線路に向かって試行錯誤できる。</p> <p>・児童一人ひとりが作業することができる。</p> <p>・マスを背景に設定しておく、移動やサイズ変更が段階的になり作業しやすい。</p> <p>・全体への共有がしやすい。</p> <p>・ここでもう一度約束事を黒板で確認する。</p>  <p>・作業用のページを複数枚用意しておくことで、何パターンも</p>

	<p>ようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いと思った線路には、“たいへんよくできましたスタンプ”を押す。 ・持ち帰りたいノートを選択し、良いと思った友達のノートを持ち帰る。 	<p>考えることができる。それ以上思いつく場合はコピーして増やすことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上だけグループワークモードにせず、実際に生活班で向き合いながら共有することで、自然に会話しながら互いの考えを認め合うことができる。 ・スタンプを押してもらうことで、教師からだけでなく、友達からも評価してもらうことができる。
--	--	--

《実践を振り返って》

- ・「発表ノート」機能を活用すると、児童全員が作業することができ、何度でもやり直しがきくのが、デジタルの良いところだと思います。
- ・「発表ノート」上で作業することにより、教師側も、線路カードの用意が不要となり、業務の効率化に繋がります。
- ・上記2点は、同じく算数の図形の「しきつめ」でも同様のメリットがあると考えられます。このようにデジタルだからこそその利点を生かせる教科、単元を探っていきたいです。
- ・グループワーク機能では、友達の考えを気軽に見て参考にできること、自分のタイミングで見ることができ、スタンプを押して評価できることが良いと思いました。
- ・授業を通して常に必要な約束事や、意識していなければならないことは、あえてアナログの黒板に残すことで、常に見返すことができます。このように、端末上だけで完結せず、黒板に残したり、ノートに残したりと、デジタルとアナログを両立し、両方の利点をうまく生かしていく必要があると感じました。
- ・現在は音楽専科のため、この実践は自分が考案した発表ノートを担任の先生に授業で使っていただき実現したものです。個人的に、算数は SKYMENU を便利に使える場面が多いように感じます。そのため、自分の音楽の授業はもちろんですが、担任の先生方が使いやすいような発表ノートの教材を作成したり、使いどころの提案をしたりするなどし、校内の算数科教育と ICT 推進に貢献していきたいと思いました。